世界へ発信！

北の縄文だより vol.10

～みんなの知らない「JOMON　World」～

縄文 JOMON JAPAN

社会教育課社会教育・文化財グループ（☎74-3010）

縄文人とアクセサリー

北海道には多くの貝塚が残っています。貝塚からは、土器や石器だけではなく、普通の遺跡では腐って無くなってしまう動物の骨や角、貝などで作られた道具がたくさん見つかっています。特に装身具、いわゆるアクセサリーはこれらを素材として作られた物が多く、貝塚を調査することで縄文時代に生きた人々の美意識に触れることができます。

装身具の種類

縄文時代の装身具には髪飾り、首飾り、腕輪などがあります。髪飾りには「髪針」や「櫛」があります。いずれも結った髪に刺して「かんざし」のように使っていたと考えられます。恵庭市カリンバ遺跡では赤い漆塗りの櫛が見つかりました。首飾りには、魚類やイルカなどの海獣類の背骨、シカの角、動物の牙を利用した物があります。穴を開けてひもを通し、ペンダントのように使ったと考えられます。また、石や貝を小さく削り、ビーズのようにつなげた物もありました。腕輪は、貝製の物が多く、二枚貝の中央をくり抜いて輪っかにした物や、細長い短冊状に加工し穴を開け、いくつかを組み合わせる物もあります。

装身具の素材

入江貝塚では、マグロやイルカの背骨、ワシのかぎ爪、トドやキツネの牙など様々な動物を素材とする装身具が見つかっています。多くは入江貝塚の周辺で見ることができる身近な動物を利用しています。

また、中には北海道には生息していないイノシシの牙で作られた物や、南の島でしか採れないイモガイ、オオツタノハガイという貝でできた物なども見つかっています。新潟県糸魚川で取れるヒスイ製の玉もありました。これらは入江貝塚の人々が交易で手に入れた物です。縄文人は装身具を作る際には素材を選ぶところからこだわっていた、ということが想像できます。

装身具を身に着けた人々

縄文時代の人々はどのような時に装身具を身に着けたのでしょう。もちろん、おしゃれのために身に着けたこともあったかもしれません。ただ、縄文時代の装身具は、単に自分を飾るためだけではなく、もっと深い意味が込められていたと考えられます。例えば、動物の骨や牙で作ったペンダントを身に着けるときには、その動物の持つ能力が自分に宿ると考えていたのかもしれません。また、祭祀や儀礼の際に身に着ける特別な装身具もあったでしょう。

装身具は縄文人の心を表した物ですから、これらを追求していくことで縄文人の考え方に近づくことができるかもしれません。

入江・高砂貝塚の世界遺産登録２周年を記念して今年は２日間にわたって開催します。講演会や縄文体験などいろいろなイベントを用意して皆さんをお待ちしています。ぜひお越しください！

■１日目　縄文講演会
日時：７月16日(日)14時～16時　入江・高砂貝塚館
講師：越田賢一郎氏(札幌国際大学縄文世界遺産研究室)

■２日目　縄文まつり
日時：７月17日(月)10時～14時　高砂貝塚公園
内容：火起こし体験、勾玉・ミニ土器作り、縄文演奏会ほか